

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター新津担当圏域レベル 担当圏域レベル）開催報告書	
1 開催日時	令和 7 年 1 月 31 日（金） 9 時 30 分 ～ 11 時 00 分
2 開催場所	可美協働センター ホール
3 参加者	22名 委員9名（新津地区4名、可美地区5名）、関係機関8名、事務局5名
4 協議の内容	<p>1.開会</p> <p>2. 協議事項</p> <p>① これまでの振り返り</p> <p>SCより、第1回協議体会議の振り返りをした。</p> <p>② 【情報提供】</p> <p>可美カフェ活動(桃カフェ)について紹介</p> <p>協議体会長より桃カフェ活動について紹介した。</p> <p><プラス面></p> <p>■チラシの効果について</p> <p>チラシをカラフルにする事や、高齢者の集いの場での配布など、積極的に周知を行い集客に繋がった。</p> <p>■目を引く工夫について</p> <p>のぼり旗を立てた。また、手作り作品(かきしぶ)と一緒に展示した。</p> <p>積極的な声かけをした。</p> <p>■実際の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加費100円として、5種類のお茶、お菓子を用意して選べるようにした。 参加者が選択できるようにしたことで、楽しさを増やせる事ができたと思う。 ・歩いて会場まで来られる為、気軽に行く事ができる。外出のきっかけにもなった。 ・偶然の久しぶりの出会いがありお互いに懐かしむ機会となった。 ・キッズルームでのイベント(「わらべ唄」主催:ももこの会)と連携して意図的にキッズルームでのイベント終了後に桃カフェに立ち寄ることができ、子どもも参加できるようにした。また、小さい子どもが参加できるとより雰囲気も良くなった。

■ ボランティア、スタッフについて

- ・気軽な形で関わってもらうことができた。
- ・81歳のスタッフもいて高齢者の活躍の場になっている。

<今後の課題>

■ 飲食の環境について

- ・テーブル、椅子があると良い
- ・サロンカフェの理解が不足している。(自由にどうぞ！などの表示が必要)
- ・もう少し場所が広いと落ち着いたかなと感じる。

■ 開催場所拡充について

- ・ふれあい交流センター可美(増楽町)だけでなく、可美地区にも広げたい。

【意見交換】各地区における今後の取組について

地区ごとに分かれ、グループで意見交換を行った。

【可美地区】<カフェ活動振り返りについて>

■ カフェ活動振り返り について

- ・カフェのみより、展示品があることで、人の目を引いた。話のきっかけ作りになった。

■ 今後の桃カフェ活動について

【課題】

- ・会場：段差が怖い
当初予定をしていた図書コーナーは入れる人数が少ない、部屋が暗い。
今年度は現在の場所で行うが今後検討が必要かもしれない、次回は(2/7)。
- ・新しい物を作る→人・場所・担い手
- ・カフェ活動のみだけだと参加者が少ないかもしれない。今回は渋柿染めの展示を行ったが実際に購入をしたいとの声もあった。ただしふれあい交流センター内であると物品の販売が出来ないので敷地内の外であれば可能なのか？
今後の連携をどんなところと取ることが出来るのか。
→ふれあい交流センター可美に登録をしている団体と連携をするのはどうか。
- ・地区によっては桃カフェへ行く事が大変。(増楽町以外の参加者)
- ・妊婦や子連れ利用周知が必要。
- ・地区社協のスタッフだけでなく、一緒に運営側に参加出来る人を増やしたい。
→カフェ活動の様子を周知して協力を繋げる
- ・可美地区は東西に長すぎる。線路で南北分断されている。
- ・各地区の動きは考えられるが、全体で考えられると…

【良かった点】

- ・ボランティアとして80代の方が参加。参加をして活躍をする場になった。
- ・参加者を限定しない。(誰でもどうぞ！)
皆が集まってお喋りが出来たので横の繋がりが出来た、また高齢者と子育て世代の交流の場にもつながった。

【その他】

- ・既存の居場所を継続
 - 既存カフェ(包括とのコラボ)
- ・高塚: サロンをやるのと同じ考え方。
- ・交流センターの入館手続きが必要なため、誰でも参加が出来る場所ではない。
- ・サロン参加者は減っている。
 - シニアクラブと協力して参加者を募る。
- ・お寺でカフェは？
 - 可美地区にお寺はあるが色々と制限ある。
- ・今後既存のカフェではなく、移動をして行う移動カフェのような展開があっても良いかもしれない。ただし運営者の労力がある程度必要になるのでしっかりと人を集めてから検討をした方が良い。

【新津地区】<買い物支援(役立ち情報)チラシ作成・配布について>

- 支援者側(地区社協事務局、民生委員、自治会等協議体)に出席している地域の代表者)はある程度知っている為、地域住民向けに知らせていきたい。
- 敬老会アンケート(包括:高齢者アンケート)結果について
 - ・アンケート結果は、6~7割は「現在心配ない」と回答している。
しかし、今後の為に考えていく事が大切である。
 - ・町によって回答率にばらつきがあり、困り事の内容が違う。
 - ・77歳以上のアンケート(敬老会アンケート:包括)を地域にフィードバックをした方が良いのではないか。
- 買い物支援について
 - R5年度~協議体では「買い物支援」について話し合ってきた。
 - 移動支援やネット・電話スーパーなど様々な資源を紹介・共有をしてきた。本年度の成果物として買い物支援のチラシを作成したい。という協議になっていた。

3回目の話し合いで、敬老会アンケート(包括:高齢者アンケート)のフィードバックがほしいという事と、市社協の協議体で話し合っていた成果物(買い物支援のチラシ)を合わせて地域住民に共有するのはどうかという話になった。

- 具体的な掲載方法について
 - ・発信元…地区社協の予算(今年度予算)
 - ・敬老会アンケート結果と一緒に出す。
 - アンケート結果で、買い物での課題が挙がった。
 - その為、アンケート結果のフィードバックと同時に役立ち情報一覧表を配布するのはどうか。[全戸配布 5500部(13,000円ネット印刷)]
 - ・敬老会アンケートを簡単にまとめた物+お役立ち情報一覧表を合わせたチラシ⇒全戸配布
「地区社協だより 特別号」にして、回覧する。(役立ち情報一覧表は全戸配布)
 - ・全戸配布にすると、家族が知る機会となる。
- チラシについて
 - ・掲載許可を事業所にとる
 - ・それぞれ(移動・ネット・電話スーパー)の定義、概要の説明必要
 - ・メインは高齢者だが、間接的に子育て支援にも使える一覧表になる

■その他(今後について)

・ベシア(浜松中田島店)が開店

ネットスーパーや移動スーパーをやるという話を聞いた。もしそうであれば、新津地区も新しい買い物資源になると思う。

・高齢者アンケートは、町によって回答率がバラバラである。町ごとによって社会資源が変わる為、今後町ごとにみていく必要があるのかもしれない。

3. ① 年度替わりによる所属や役職の変更、協議体委員の継続に関わる調査について

② 次年度開催会場について

4. 閉会

可新生活支援体制づくり協議体 副会長

5 今後の見通し・
必要な対応

今回の協議体では、R6年度第1回生活支援体制づくり協議体振り返り、可美カフェ活動(桃カフェ)について紹介した。

各地区に分かれて可美地区:「カフェ活動の振り返り」、新津地区「買い物支援(役立ち情報)チラシ作成・配布について」グループワークをした。

可美地区:「まずはやってみよう!」という事で、小規模からスタートした。毎月2回開催する。毎回異なった企画(物品の展示や、自由に物品を持ち帰られるような企画)を行う予定である。今後も特に男性の参加者を促す方法を可美地区社協と話し合いながら進めていく。今後も、訪問しつつ、状況等を把握していく。

新津地区:買い物支援(役立ち情報)チラシ作成・配布に向けてチラシ(サンプル)を参考に、配布に向けて具体的な内容(スケジュール・予算等)について協議した。

4月の回覧で出せるように、2月末に新津地区社協会長・自治連会長、包括新津と打合せをする為、調整する。打合せまでに、チラシを完成させる。